

第1回「鹿児島港本港区エリアまちづくり検討委員会」
結果概要

1 開催日時・場所

平成30年5月10日（木）午後1時半～午後3時15分
ウェルビューかごしま（鹿児島市）2階「潮騒」

2 会次第

- (1) 知事あいさつ
- (2) 委員紹介
- (3) 委員長選出
- (4) 委員長あいさつ
- (5) 議事
 - ① 鹿児島港本港区エリアまちづくり検討委員会設置趣旨について
 - ② 平成29年度調査結果について
 - ③ 委員会の進め方等について
 - ④ その他

3 結果概要

- (1) 委員長に、宮廻甫允鹿児島大学名誉教授を選任。
- (2) 事務局から次の事項について資料に基づき説明。
 - ① 委員会の設置趣旨
鹿児島港本港区エリアまちづくりのランドデザインについて検討を行うことを目的とすること。
 - ② 平成29年度調査結果
平成29年度に、本港区エリアの「現状分析」、民間提案・対話を含む「活用方策の検討」及びこれらを踏まえた「ケーススタディ」により、主な導入機能の整理や開発検討区域の設定等を行い、開発のコンセプトを「年間365日、国内外の幅広い観光客や県民で賑わい、国際的な観光拠点にふさわしい『来て見て感動する観光拠点』の形成を図る」とした。
 - ③ 委員会の進め方等
先行事例の手法を参考に、実現性の高い事業スキームとなるよう、ランドデザイン策定の検討過程において、更に具体的な事業計画などの提案を民間事業者から募集し、参考にしながらランドデザインを検討するとした。
- (3) 委員の意見等を踏まえた修正を行った後、民間事業者に対し公募を行う。

4 委員会からの主な発言（要旨）

- (1) まちづくりについて
 - ・ 持続可能な観光地とは、県民・市民が憩いの場としてよく訪れるところである。10年先を見越して、県民・市民の支持が受けられるような内容でなければならない。
 - ・ 与次郎ヶ浜から仙巖園まで、中央駅から天文館までの流れなど、縦軸、横軸の大きな流れを捉えて本エリアを考えていくことが必要。

- ・ 鹿児島が一流のリゾートとして捉えられる地にするにはどうすればいいか考える必要がある。そのためには、知名度・認知度を上げる努力が必要であり、本エリアがその目玉になるかどうかの一つの視点となる。
- ・ 観光は、そこでの生活などを見に行くものであり、県民・市民がそれを誇りに思っていたり、魅力的と思っていることが大前提。
- ・ 本エリアを訪れる全ての人にとって、魅力的な、居心地の良い空間であってほしい。本エリアが、鹿児島の良さを五感で堪能できるような場になり、更にここから県内各地に波及していくような役割も担っているのではないか。
- ・ 単機能ではなく、多くの要素が入ったまちづくりとしてほしい。既存の街の連続線上にあることを意識していただき、テーマパークのような入場料のいる街にはなあってほしくない。春夏秋冬、朝昼晩、平日休日全てにおいて情景が描けるような魅力がある街になるよう考えていく必要がある。
- ・ 多機能複合型の施設としたときの施設全体としての相乗効果や、既存の中心市街地との関わりについて考える必要がある。

(2) 港湾機能について

- ・ 本エリアには航路旅客事業者が離島への旅客事業を行っており、旅客の安全を確保する観点から、港の機能が損なわれることのないよう、また、円滑や荷役作業や旅客船の定時運航に支障のないよう配慮していただきたい。
- ・ 鹿児島の街はイタリアのジェノバに近いと思っているが、ジェノバとの違いは、港が市民の憩いの場になっていないこと。美しく居心地の良い空間とするためにも、荷役作業などどう棲み分けるかが課題。
- ・ 全ての人が賛成のものはできないかもしれないが、従来の港湾機能との調整は非常に重要な課題。
- ・ 港湾機能を維持しながらも、その構成についてはアイデアを出してほしい。

(3) 交通アクセスについて

- ・ 鹿児島市としては、路面電車の活用を必須条件として考えており、公募要項の中での関連の記述について考慮していただきたい。
- ・ 天文館、中央駅との連続線上を担保するに当たり、交通アクセスは非常に重要。

(4) 民間提案等について

- ・ 民間からの提案に、今の既存市街地とWIN-WINの関係となるようなコンセプトを入れるようにしていただきたい。
- ・ 民間事業者からの提案には文化性、歴史性、景観などを盛り込むよう、要項に文言を入れるべきだと思う。
- ・ 非常に規模の大きいエリアであり、長期的に、段階を分けて提案することも現実的だと思う。
- ・ 計画を進めるに当たり、県民・市民に対し、情報発信を行うことも大切。